



KEIO CENTER FOR STRATEGY

慶應義塾大学
戦略構想センター
2026

KCSの組織案内

- ・ センター長の挨拶
- ・ いま「戦略」を構想する意義
- ・ 大学発シンクタンクの意義
- ・ センター所属教員
- ・ 研究プログラム

年次報告 2025年

- ・ 戦略フォーラム
- ・ エキスパートラウンドテーブル
- ・ Strategic Foresight
- ・ 慶應オープンフォーラム
- ・ 新潮社 Foresight「無極化する世界と日本の生存戦略」
- ・ YouTube企画「グローバルトレンド」





KEIO CENTER FOR STRATEGY

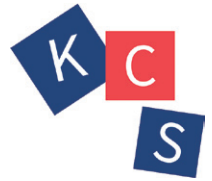
KEIO CENTER
FOR STRATEGY

慶應義塾大学 戦略構想センター

ABOUT US

慶應義塾大学戦略構想センター (Keio Center for Strategy: KCS) は、世界情勢が混迷を増す中、慶應義塾大学に所属する様々な学問領域のエキスパートらが協業し、領域横断的に研究・提言を行うために2023年3月1日にKGRI (Keio University Global Research Institute) 内に設立されました。経済安全保障、戦略的コミュニケーション、地政学などの分野にも取り組み、政府と民間の協力を含めて従来の垣根を越えた研究活動を目指します。

学界、経済界、政府からの参画を得て、交流の場を提供する他、海外の大学やシンクタンクと協業し、より広範な知のネットワークのハブとして、国際的な政策研究を行います。



Contents

組織案内

01 センター長の挨拶（細谷雄一）	1
02 いま「戦略」を構想する意義（森 聡）	2
03 大学発シンクタンクの意義（鶴岡路人）	3
04 センター所属教員	4
05 研究プログラム	8

年次報告 2025 年

01 KCS Closed Events	15
02 KCS Projects	19
リサーチ・アシスタントの声	29
各種 SNS のご案内	30
お問い合わせ	31
寄付について	32

細谷 雄一

KCSセンター長



いま、世界が大きく混迷しています。ウクライナと中東での戦争は継続し、ポピュリズムの台頭や政治の分極化、民主主義の後退などが世界を動揺させています。混迷する世界の中で、よりいっそう長期的な視座、そして広い視野からの戦略的思考が求められています。

慶應義塾大学戦略構想センター（KCS）は、そのような世界が大きく揺れ動き、よりいっそう不透明性を増す中で、2023年3月に誕生しました。戦略構想センターでは、それぞれの学問分野の狭い垣根を越えて、多様な問題を、学際的および実践的に検討をして、その研究の成果を積極的に発信していくことを目指しています。

慶應義塾の創設者である福沢諭吉は、学問において「実学」の重要性を説きました。それは、実証的に真理を解明し問題を解決していく学問姿勢であり、現実世界に目を向けてその課題に取り組むことだと考えます。そのような志をわたしたちも継承し、戦略構想センターでは世界の抱える、そして日本の抱える多様な問題に、真摯に、そして実証的かつ学問的基礎に基づいて向き合っていきます。

いま「戦略」を構想する意義

「戦略」という語は、その原型とされる strategos、strategia といった言葉が古代ギリシャで使用されていたことが確認されています。時代とともに戦争観が変遷し、軍事のみならず、経済なども含めた国家資源を総合的に動員するグランドストラテジーという概念が登場するなど、「戦略」の定義は多様化し拡散してきました。英国の戦略研究の大家ローレンス・フリードマンは、2023年5月に第3版が刊行された論集『新・現代戦略思想の系譜』に寄稿した論文で、戦略という語の定義と用法の変化の歴史をたどり、「過去250年の間に、『戦略』はほとんどあらゆる人間の営みに潜在的に関係しうる総花的な言葉になった」と指摘しています。

いま世界は主要な大国が一国主義的な傾向を強めつつあり、価値規範の共有度が低下していく局面に入っています。利害が衝突した時に、共通の価値規範に基づいて交渉を行い、互いが納得できる決着を実現するのが困難となりつつあり、国際政治の予測不能性が増しています。また、国家と国家はヒト、モノ、カネ、技術に至るまで複雑に絡み合っていますが、それらが武器化される傾向も増えています。こうした時代認識の下で、国際的な知のネットワークの中に身を置いて、「戦略」とは何かという理解を更新しつつ、日本の「戦略」のあり方を議論し考え抜いて構想することが求められています。

現代において「戦略」を構想する意義は、こうした不確実性と流動性に満ちた現代の世界を生き抜いていくための針路を見出すことにあるといえます。自らが直面するリスクを把握し、どのようなリスクを優先的に抑えていくべきかという判断を下して、リソースの制約を念頭に置きながら、様々なリスクに対処するための方法と手段を体系的に一貫・整合させる「戦略」を不断に見直していかねばなりません。慶應義塾大学の戦略構想センターは、こうした営みを実践する塾内外の専門家や将来が有望な若手研究者を集めた知的集団の拠点となることを目指します。

森 聡

KCS副センター長

大学発シンクタンクの意義

国際関係や各国の政治や社会が流動化するなかで、政策研究の必要性は上昇しています。そうしたなかで、日本でもさまざまなシンクタンクが活動しています。大学にも、「研究所」と名のつく組織は以前から多数ありますが、政治や外交、安全保障を起点に、経済や技術の問題を含む「戦略」を扱い、現代の政策研究を主眼としたものは、まだ数が限られます。日本では、現代的な課題に関する政策研究が、学術研究としては重視されてこなかったという背景があります。

慶應義塾大学戦略構想センター（KCS）では、慶應義塾大学の教員による学術研究を基礎として、日本における新たな政策研究のあり方を確立できるように努めていきます。政策研究自体の方法論を構築することで、学部や大学院での教育に反映させるほか、政策研究を通じて、大学と社会の新たな関係のあり方も模索していきます。

また、大学に設置されたシンクタンクとして、日本の政策研究を率いる次世代の育成を、主要な役割の一つとして掲げています。大学院生、さらには学部学生がリサーチアシスタント（RA）としてシンクタンクにおける政策研究や組織運営の現場を、すでに経験しています。さらに、特任助教の制度を用いて、政策研究の新たな担い手を育成していきます。大学院生や若手研究者が、政策研究を志す国際的なネットワークに加わることも重要です。そのため、KCSと各国との研究機関間の交流や共同研究には、特任助教やRAも積極的に参加することを奨励していきます。

鶴岡 路人

KCS副センター長

DIRECTORS

KCS所属教員

*肩書きは2026年1月19日時点

細谷 雄一

慶應義塾大学法学部教授／KCSセンター長

専門 国際政治学、イギリス外交史、日本の安全保障政策

1994年立教大学法学部卒業、1996年英国バーミンガム大学大学院国際学研究科修了(MIS)、1997年慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程修了、2000年同博士課程修了、博士(法学)取得。プリンストン大学客員研究員、パリ政治学院客員教授などを経て、2010年より慶應義塾大学法学部教授。安倍晋三政権で「安全保障と防衛力に関する懇談会」委員や国家安全保障局顧問を歴任。主な著作に『戦後国際秩序とイギリス外交』(2001年)、『外交による平和』(2005年)、『倫理的な戦争』(2009年)、『国際秩序』(2012年)など。



Yuichi HOSoya

森 聡

慶應義塾大学法学部教授／KCS副センター長

専門 現代アメリカの安全保障、国際政治

1995年京都大学法学部卒業、同大学大学院法学研究科修士課程修了。外務省勤務を経て、2007年東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了、博士(法学)取得。2008年法政大学法学部准教授、2010年同教授を経て、2022年より慶應義塾大学法学部教授。この間プリンストン大学とジョージワシントン大学で客員研究員。現在、中曽根平和研究所上席研究員、防衛省新防衛政策懇談会委員、防衛省宇宙領域アドバイザリーボード委員。2022年に国家安全保障局が実施した安保三文書のヒアリングに招請。主な著作に『ヴェトナム戦争と同盟外交』(2009年・アメリカ学会清水博賞受賞)、『国際秩序が揺らぐとき』(共著、2023年)、『ウクライナ危機以後』(共著、2025年)など。



Satoru MORI

鶴岡 路人

慶應義塾大学総合政策学部教授／KCS副センター長

専門 国際安全保障、現代欧州政治

1998年慶應義塾大学法学部卒業。同大学大学院法学研究科、米ジョージタウン大学大学院を経て、英ロンドン大学キングス・カレッジにて博士号(PhD in War Studies)取得。在ベルギー日本国大使館専門調査員(NATO担当)を経て2017年まで防衛省防衛研究所(教官、主任研究官)。その他、防衛省防衛政策局国際政策課部員、英王立防衛安全保障研究所(RUSI)訪問研究員、オーストラリア国立大学(ANU)訪問研究員などを歴任。著書『模索するNATO』(2024年)および『はじめての戦争と平和』(2024年)でサントリー学芸賞。他に『欧州戦争としてのウクライナ侵攻』(2023年)、『EU離脱』(2020年)など。



Michito TSURUOKA

KCS FACULTY MEMBERS



Yoko HIROSE

廣瀬 陽子

慶應義塾大学総合政策学部教授／KGRI 副所長

専門 国際政治、旧ソ連地域研究

1995年慶應義塾大学総合政策学部卒、東京大学大学院法学政治学研究科修士課程修了、同博士課程単位取得退学。博士（政策・メディア／慶應義塾大学）。慶應義塾大学総合政策学部講師、東京外国語大学大学院地域文化研究科准教授、静岡県立大学国際関係学部准教授、等を経て現職。国家安全保障局顧問（2018-20年）など政府の役職への就任も多数。『コーカサス 国際関係の十字路』（2008年7月）で第21回「アジア・太平洋賞」特別賞受賞（2009年）。2023年度、慶應義塾大学義塾賞を受賞。



Tomoki KAMO

加茂 具樹

慶應義塾大学総合政策学部教授／総合政策学部長

専門 現代中国政治外交

慶應義塾大学総合政策学部卒業、復旦大学留学を経て97年政策・メディア研究科修士課程、2003年同博士課程修了、博士（政策・メディア）。慶應義塾大学法学部准教授、総合政策学部教授などを務め、21年から総合政策学部長。この間、在香港総領事館専門調査員、國立台灣師範大学訪問研究員、カリフォルニア大学バークレイ校訪問研究員、國立政治大学客員准教授、在香港総領事館領事を歴任。主な著作に『現代中国政治と人民代表大会』（06年）、『十年後の中国 不安感のなかの大国』（23年）、監訳（呉国光著）に『権力の劇場 中国共産党大会の制度と運用』（23年）。



Junya NISHINO

西野 純也

慶應義塾大学法学部教授／東アジア研究所長／朝鮮半島研究センター長

専門 現代韓国朝鮮政治、東アジア国際政治、日韓・日米韓関係

慶應義塾大学法学部政治学科卒業、同大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程修了、博士課程単位取得。韓国・延世大学大学院政治学科博士課程修了（政治学博士）。在韩国日本大使館政治部専門調査員（2002-2004年）、外務省国際情報統括官組織専門分析員（2006-2007年）、ハーバード・エンチン研究所交換研究員、ウッドロー・ウィルソン・センターのジャパン・スカラー、ジョージ・ワシントン大学シグール・センター客員研究員等を歴任。近著に『激動の朝鮮半島情勢を読みとく』（共編著、2023年）など。

KCS FACULTY MEMBERS

宮岡 勲

慶應義塾大学法学部教授

専門 安全保障論、国際政治理論、日米の防衛政策

慶應義塾大学法学部卒業、1994年NZカンタベリー大学大学院政治学研究科修士課程修了(MA)、1999年英国オックスフォード大学大学院社会科学研究科政治学専攻博士課程修了(DPhil)。大阪外国語大学外国語学部助教授・准教授、大阪大学大学院国際公共政策研究科准教授、慶應義塾大学法学部准教授を経て現職。最近の著作に『入門講義 安全保障論』(2020年、2023年)がある。



Isao MIYAOKA

神保 謙

慶應義塾大学総合政策学部教授

専門 国際安全保障論、アジア太平洋の安全保障、日本の外交・安全保障政策

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了(政策・メディア博士)。タマサート大学(タイ)で客員教授、国立政治大学(台湾)で客員准教授、南洋工科大学ラジャラトナム国際研究院(シンガポール)客員研究員を歴任。政府関係の役職として、防衛省参与(2020)、国家安全保障局顧問(2018-2020)、外務省政策評価アドバイザーリーグループ委員、ASEAN地域フォーラム(ARF)専門家・賢人会合(EEP)日本委員。



Ken JINBO

詫摩 佳代

慶應義塾大学法学部教授

専門 国際政治学、グローバル保健ガバナンス

2005年東京大学法学部第三類卒業、2010年東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻博士課程単位取得退学。博士(学術)。東京都立大学法学部教授、フランス国立社会科学高等研究院(EHESS)訪問研究員などを経て、2024年4月より慶應義塾大学法学部教授。著書に『人類と病——国際政治から見る感染症と健康格差』(2020年)、『グローバル感染症の行方——分断が進む世界で重層化するヘルス・ガバナンス』(2024年)など。



Kayo TAKUMA

KCS FACULTY MEMBERS



Koichiro TANAKA

田中 浩一郎

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授

専門 西アジア（中東）地域研究、エネルギー安全保障、平和構築・予防外交

1988年東京外国語大学大学院言語・文化研究科修了（修士）。専門は西アジアの地域研究、エネルギー安全保障、平和構築・予防外交。1989年から在イラン日本大使館専門調査員を3年間務める。その後、外務省国際情報局専門分析員、国際連合アフガニスタン特別ミッション政務官、一般財団法人日本エネルギー経済研究所常務理事などを歴任。最近ではNHK国際放送番組審議会副委員長や経済産業省臨時専門アドバイザーを務めた。



Masaya INOUE

井上 正也

慶應義塾大学法学部教授

専門 日本政治外交史

2002年神戸大学法学部卒業、2009年同大学大学院法学研究科博士後期課程修了。神戸大学大学院法学研究科専任講師、香川大学准教授、成蹊大学教授を経て現職。博士（政治学）。著書『日中国交正常化の政治史』（2010年、サントリー学芸賞・吉田茂賞受賞）、『戦後日本のアジア外交』（共著、2015年、国際開発研究大来賞受賞）、『評伝福田赳夫』（共著、2021年）など。



Mizuki YAMAMOTO

山本 みずき

慶應義塾大学戦略構想センター特任助教

専門 インテリジェンス史、イギリス政治外交史

2025年慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程修了、博士（法学）取得。日本学術振興会特別研究員（DC2）、ケンブリッジ大学訪問研究生を経て、2024年9月より現職。2025年4月より東京大学大学院法学政治学研究科特任研究員（日本学術振興会特別研究員-PD）を兼任。主な著作に『国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ』（共編著、2020年）、マイケル・ウォルツァー『聖徒の革命：急進的政治の起源』（共訳、2022年）、『民主主義は甦るのか』（共著、2024年）など。2025年、ケンブリッジ大学よりColin Bell Awardを受賞。

KCS 研究プログラム

I 若手研究者の養成

慶應義塾大学戦略構想センター（KCS）は、日本の政策研究を率いることが可能な次世代研究者の育成を主要な役割として掲げて多様な取り組みを行っています。具体的には、1）国際会議への参加や海外の大学院生と交流する機会の創出、2）国内外での研究調査支援等を実施しています。日本が国際社会において持続的な影響力を発揮し、社会の安定に寄与するためには、複雑化する現代社会の課題を適切に理解・分析できる人材の育成が不可欠だと考えています。

▶ 詳細はP.9-10

II 海外大学・研究機関との協力

KCSは、海外の大学や研究機関との連携を通じて、最新の研究や政策に関する意見交換会を積極的に実施しています。共同研究やシンポジウムを通じて、学術的知見を積み重ね、最先端の知見を社会に発信することを理念としています。

▶ 詳細はP.11-12

III 政府とのコミュニケーション

KCSは、国内外の政府関係者との意見交換を定期的実施することで、情勢認識をアップデートすると同時に、課題解決のための知見を提供し、国内外の政策議論を促進しています。2023年度には内閣府の委託事業を引き受け、政府傘下のシンクタンク設立に向けての研究調査を実施しました。

▶ 詳細はP.13

若手研究者の養成

国際会議の参加／

国際的な若手研究者との交流

KCSでは、若手研究者の学術的なキャリアや国際的なネットワークの構築を重視し、国際会議への参加を推奨しています。議論や社交の場に参加し、これらの経験を早い段階で積むことは将来のキャリア構築の上でも重要です。海外の研究者・大学院生との交流を通じて、留学や在外研究先の選択肢を広げ、国際的な視野を養う環境を提供することを目的としています。KCSは、次世代の研究者がグローバルな舞台で活躍することを応援しています。

国内外での研究調査支援

KCSでは、若手研究者が国内外での研究調査を行うための支援を積極的に行っています。各分野のエキスパートによる研究指導に加え、渡航支援や調査計画のサポートを通じて、若手研究者が現地での研究調査を円滑に進めるための環境を提供しています。若手研究者が研究に集中する環境をつくることで、研究成果が社会全体の発展に寄与することを目指しています。

若手研究者支援事例の紹介

2025年2月

イギリスでの国際会議企画

KCS所属の若手研究者による発案で、ケンブリッジ大学地政学研究所 (Centre for Geopolitics) との共催会議 Keio-Cambridge Seminar の開催を支援しました。日英の実務家と専門家が、安全保障やインテリジェンス分野における協力の可能性を探る場として2023年より定例開催しています。

2025年2月には、2回目となる Keio-Cambridge Seminar も無事に開催できました。米国の動向により世界各地で力の真空が生じかねない現状において、日英両国が協力して安定した国際秩序を主導していく重要性が改めて確認されました。



研究者・実務家との意見交換会



Keio-Cambridge Seminar

2025年3月

アメリカでの研究調査

2025年、KCSでは複数名の若手研究者によるアメリカ合衆国での海外調査および国際会議への参加を支援しました。本海外調査は、国際会議の参加や史料館における研究調査といった学術研究に加えて、海外の専門家や大学院生との交流やシンクタンクの訪問を通じた政策提言に関する知見の蓄積や将来のキャリア構築の支援を目的として行われ、参加した若手研究者からも非常に高い評価を得られました。KCSは、今後も継続的な支援の実施を通じて、学術研究と政府や企業への政策提言をつなげる国際的な人材の養成を目指します。



国際会議への参加 (Japan House 主催)



シンクタンク研究者訪問
(ハドソン・インスティテュート)



史料館での研究調査
(ニクソン大統領図書館など)

2025年11月

イスラエルでの研究調査

インテリジェンスの国際比較研究を進める若手研究者によるイスラエルでの研究調査を支援しました。同国のインテリジェンス活動を形作っている政治・外交・安全保障環境の調査のため、イスラエルの政府関係者・有識者との意見交換に臨席する機会を実現しました。



モサド本部



2025年6月、
イランのミサイル攻撃を受けたビル

KCS × University of Cambridge

慶應義塾大学戦略構想センター（KCS）はケンブリッジ大学地政学研究所（Centre for Geopolitics）との協働で2023年よりKeio-Cambridge Seminarを実施しています。2025年2月には、「トランプ新政権と日英関係」をテーマに第3回会合をケンブリッジ大学で開催しました。2023年11月に実施した初回会合では、リチャード・ディアラブ元MI6長官や林肇元駐英日本国大使をはじめとする両国の要人が参加し、3度目となる本会合では鈴木浩駐英日本国大使、英国側からは貴族院・下院の議員も加わり、日英の政界・官界・学界の対話の場として、継続的な戦略的対話を実施しています。日本のファイブアイズ参加の可能性と限界も含めたインテリジェンス協力から防衛協力の是非まで議論が行われました。

KCS × Columbia University

KCSとコロンビア大学ウェザーヘッド東アジア研究所（Weatherhead East Asian Institute）は、日米関係の現状と将来を多角的に検証することを目的としてアニュアル・イベントを開催しています。このイベントは、ニューヨークと東京で毎年交互に開催される予定です。2024年11月18日には、コロンビア大学にて「選挙の影響：日米関係における可能性と課題を考える」と題したカンファレンスが開催されました。東アジアおよび国際政治の専門家が集い、日米両国の政治状況が朝鮮半島、東南アジア、台湾海峡における安全保障環境、そして国際秩序にどのような影響を与えるかについて議論が行われました。日米のパートナーシップが複雑さを増す世界情勢の中で、諸問題を乗り越え、協調的な未来を築いていく方法を考えることは喫緊の課題です。今後も日米関係に関する研究と建設的な対話を促進していきます。

Japan-US-UK Cooperation for the Reconstruction of the International Order

「国際秩序の再構築のための日米英協力」プロジェクトは、国際交流基金の支援を受けて、KCSがジョンス・ホプキンス大学キッシンジャー・センター、ケンブリッジ大学地政学研究所と連携して進める国際共同研究です。プロジェクトでは国際秩序の歴史や正統性、戦略の課題を分析し、2025年から3年間にわたり、シンポジウムや意見交換を通じて知見を深め、成果を発信します。

リベラルな国際秩序が揺らぐ中、日米英が協力して新たな国際秩序を描き、そのためのグランドストラテジーを構築することは喫緊の課題です。各国の専門家や政策立案者が集まり、外交、安全保障、経済協力の分野での課題と協力の枠組みを探求する機会をつくります。

* 2026年3月には、イタリアにおいて、日米英の第一線の歴史家・専門家を交えた国際会議を開催します。初回となる本会議は国際秩序の再構築に向けた歴史的な含意の創出を目的としており、その成果は開催後の報告書を通じて、広く社会へ発信します。

KCS × ROLES

KCSと東京大学先端科学技術研究センター創発戦略研究オープンラボ (ROLES) は大学発シンクタンクとして、継続的に連携しています。2025年9月には、「危機の30年——冷戦後秩序はなぜ揺らいだのか」をテーマとする海外研究者を招聘したシンポジウムを開催した他、‘Geopolitics and Secret Intelligence during the Cold War and Beyond’と題するクローズド・セミナーを共催しました。ROLESとKCSは、日本では数少ない大学発シンクタンクとして、学術と政策を結ぶ対話の場を国内外に広げるべく、国際的な知的ネットワークの構築に共同で取り組みます。

■ 内閣府委託事業

2021年3月26日に、科学技術・イノベーション基本計画が閣議決定され、科学技術分野の先端的な知見を活かした研究活動を政策提言につなげるシンクタンクの設立が政府主導で進められています。慶應義塾大学戦略構想センター（KCS）は、内閣府よりシンクタンク設立の一環となる調査業務を受託し、報告書「安全・安心に関するシンクタンク機能育成事業（事業項目3：国際政策動向・情勢分析）」を取りまとめました。

右記QRコードより
報告書をご覧ください ▶



■ 非公式意見交換会

① プレンコビッチクロアチア首相との意見交換会

慶應オープンフォーラムでの講演に先立ち、アンドレイ・プレンコビッチクロアチア共和国首相、細谷センター長、鶴岡副センター長との間で意見交換が行われました。

② オーストラリア有識者／政府関係者との意見交換会

国際交流基金による日豪次世代対話交流事業プログラムの一環として、オーストラリア外務貿易省関係者をお招きし、日豪の専門家を交えて非公式の意見交換会を実施しました。

③ 海外研究者×外務省関係者との意見交換会

KCSは不定期かつ非公式に、海外研究者と外務省関係者との間で、学術的知見と政策的知見を架橋する意見交換を継続しています。



The image is a dark blue background with two diagonal gold lines crossing from the top-left to the bottom-right. The text '年次報告' is in white, and '2025' is in a light blue color, set against a dark blue rectangular background.

年次報告 2025

法人企業会員限定

KCS CLOSED EVENTS

① 戦略フォーラム

戦略フォーラムは、法人企業会員の皆さまを対象にした月例の非公開勉強会です。各分野の第一線で活躍する実務家や研究者を講師に迎え、最先端の知識や国際的な政策動向を共有します。少人数制での開催により、参加者同士のネットワークや自由な意見交換が可能となり、実用的な知見を得られます。政治、経済、安全保障、AIを含むテクノロジーなど幅広いテーマを取り上げ、国際社会と日本をめぐる様々な問題を検討していきます。

② KCS Expert Roundtable

KCSエキスパートラウンドテーブルは、外国人研究者・政策専門家をゲストにお招きして行う有識者や政府関係者との定期的な意見交換会です。この会合は、政策立案や国際的な課題に関する知見を共有し、建設的な議論を通じて具体的な提言を生み出す場です。政府高官を含む参加者を迎え、非公開で行われます。テーマは安全保障、経済政策、国際関係など幅広く、日本と世界が直面する課題を取り上げます。KCSのシンクタンクとしての役割を活かし、政策形成や戦略構想に寄与することを目指しています。

③ 慶應の教授陣による出張講義

KCSは、法人企業会員限定で慶應の教授陣による出張講義を実施しています。この講義は、国際情勢に即したテーマについて最新の情報や専門知識を直接学べる機会であり、KCSにご協賛くださる企業を対象に提供されています。各分野の第一人者が分かりやすく現在の国際情勢を解説、実践的な知見を得られると好評です。講義後には質疑応答や意見交換を行い、双方向の学びを重視しています。組織の人材育成や戦略立案に役立つ出張講義をぜひご活用ください。

戦略フォーラム 2025

法人企業会員の方々を対象とした少人数での非公開フォーラムを開催、
各分野に精通する実務家・研究者を迎え、最先端の情報を得る場を提供します。

登壇者一覧 *肩書は当時

第11回 「トランプ2.0と日本の安全保障」



2025年4月21日(月)
17:00-18:30

長島 昭久

内閣総理大臣補佐官/
衆議院議員

第14回 「最近の国際情勢と日本の針路」



2025年7月14日(月)
18:00-19:30

谷内 正太郎

初代国家安全保障局長/
株式会社富士通フューチャー
スタディーズ・センター理事長

第12回 「トランプ政権の経済政策と 基軸通貨としての米ドルの行方」



2025年5月19日(月)
18:00-19:30

武田 真彦

Senior Fellow, Australia-
Japan Research Centre

第15回 「大国化と伝統回帰が進む インド外交」



2025年10月20日(月)
18:00-19:30

笠井 亮平

岐阜女子大学
特別客員准教授

第13回 「戦後日本外交の歩み」



2025年7月1日(火)
18:00-19:30

兼原 信克

笹川平和財団常務理事/
元国家安全保障局次長

第16回 「AIを巡る地政学」



2025年12月15日(月)
18:00-19:30

福永 哲郎

内閣府人工知能政策推進室
室長

コメンテーター



細谷 雄一

慶應義塾大学教授
KCSセンター長



森 聡

慶應義塾大学教授
KCS副センター長



鶴岡 路人

慶應義塾大学教授
KCS副センター長

毎月第3月曜日 18:00-19:30

* 都合により変更する場合があります

* 大学が休暇に入る8-9月、2-3月は開催いたしません

KCS Expert Roundtable 2025

海外の研究者・実務家を招いて不定期でクローズド・ラウンドテーブルを開催

*通訳なし・英語のみ

第1回エキスパートラウンドテーブル

『「新たな核の時代」と日本の安全保障へのインプリケーション』

講師 **Ankit Panda 氏**

(カーネギー国際平和財団主任研究員)

概要 核秩序の複雑化を受けて大きな転換点を迎えている米国核戦力の近代化の問題点や米国の同盟国が抱える拡大抑止に関する課題、第2次トランプ政権の核戦略、米国戦略コミュニティでの核をめぐる最近の議論などが議論されました。



第2回エキスパートラウンドテーブル

「AUKUSの現状と課題——豪州の視点」

講師 **Stephan Fruehling 氏**

(オーストラリア国立大学戦略・国防研究センター教授)

概要 オーストラリアを拠点とするアメリカ研究の専門家を招き、日本側からはイギリス研究者、米豪関係の専門家を交えて、AUKUS（米英豪）の現状と課題、米豪関係における原子力潜水艦と先端技術協力の「二つの柱」などに関して、特に豪州の視点から議論を行いました。



第3回エキスパートラウンドテーブル

「通常戦力の恐怖の均衡」

講師 **James Fearon 氏**

(スタンフォード大学教授)

概要 現代における米中の通常戦力バランスをめぐる諸問題や、アメリカのこれまでの国防政策上の取り組み、そして通常戦力レベルにおける陸・水中・空の第二撃能力のトライアドを構築する必要性、対中抑止を目指す地域諸国が各々の接近阻止・領域拒否 (A2/AD) 能力を整備する必要性などについてお話をいただきました。



* 第4回 Expert Roundtable は、Alina Poliyakova 氏 (CEPA 所長) をお招きして2026年1月20日に開催予定です。

戦略構想センターへのご支援のお願い



慶應義塾大学戦略構想センターは、最先端の安全保障・国際政治研究を通じて、学術と政策立案の橋渡しを担い、不安定化する国際社会の安定と持続可能な未来の創造に貢献します。貴社のご支援により、国際的な共同研究や次世代の政策研究者の育成が可能になります。ともに未来を創るパートナーとして、ぜひご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄付の活用分野例

- ▶ 各種研究プロジェクトの推進（リスク分析を含む）
- ▶ 人材育成（若手研究者の育成）
- ▶ 海外大学との共同研究（ケンブリッジ大学、SAISなど）
- ▶ 情勢解説動画『グローバル・トレンド』の制作・発信

ご支援いただいた企業様には、以下の特典をご用意しております。

- ✓ 法人会員企業限定の月例サロン「戦略フォーラム」への御招待
- ✓ 戦略構想センターの刊行物に貴社ロゴを掲載、イベントでの優先的な席の確保
- ✓ 国内外の有識者・政府関係者と意見交換可能な「エキスパートラウンドテーブル」へのご招待（寄付額300万円以上）

会員制度のご案内 *寄付は税制優遇措置の対象となります。

K 会員

- エキスパートラウンドテーブル招待
- 戦略フォーラム参加（4名）
- 出張講義／人材育成
- 相談による委託研究

1,000万円／年

E 会員

- エキスパートラウンドテーブル招待
- 戦略フォーラム参加（3名）
- 出張講義／人材育成（1回）
- 相談によるイベント共催

500万円／年

I 会員

- エキスパートラウンドテーブル招待
- 戦略フォーラム参加（2名）
- 出張講義／人材育成（1回）

300万円／年

O 会員

- 戦略フォーラム参加（1名）

100万円／年

*予算状況等により、活動の規模やペースが変化しうることを予めご了承ください。

KCS PROJECTS

KCS Strategic Foresight

2024年度よりスタートしたKCS Strategic Foresightは、KCS所属教員を中心とする各地域の専門家が、年初にその年の国際情勢を展望するアニュアル・イベントです。各国の内政から外交にいたる情勢分析を統合することで、日本にとって何がリスクとなり得るのか、国際情勢のトレンドは何かなど、世界の動きを先読みします。企業の取り組みが国際情勢に直接影響を受ける現代において、リスク評価や戦略立案に資する取り組みとなることを目指します。

▶ イベントの詳細はP.21-22

慶應オープンフォーラム

慶應オープンフォーラムでは、国内外の著名な研究者・政治家による講演・パネルディスカッションを開催しています。参加者も直接議論に加わることで、双方向性のある知的交流を実現しています。また、慶應義塾大学が掲げる「実学の精神」を体現する場として、最先端の研究成果や社会課題の考察を発信することを責務とし、社会とのつながりを深めることを目指しています。慶應オープンフォーラムは、社会・政治問題への理解を深めたい全ての方々に開かれています。

▶ 過去のイベント一覧はP.23

新潮社×KCS 「無極化する世界と日本の生存戦略」

既存の国際秩序が揺らぎ、かつての「二極」や「単極」の枠組みを超えて、多層的で多極的な状況が広がる現代社会。この「無極化」とも呼べる新たな国際秩序の中で、日本はどのように生存戦略を描き、国際社会での立ち位置を確保すべきなのでしょうか。新潮社ForesightとKCSの共同企画として始まった本連載では、KCSに所属するエキスパートが、主に国際政治と安全保障の視点から「無極化する世界」を紐解き、日本の選択肢を探ります。

▶ 過去の記事一覧はP.24



国際情勢の解説動画「グローバル・トレンド」

「グローバル・トレンド」は、国際情勢の最新動向をタイムリーに解説する動画シリーズです。第一線で活躍するKCS所属の研究者が、安全保障、外交政策、経済動向、地域紛争など、複雑化する国際社会の動きを専門的知見に基づいて読み解きます。日々変化する国際社会を理解する上で必見の動画シリーズ、新しい動画は随時配信中！

▶ 過去の動画一覧はP.25-26

必読文献の紹介「KCS ブックレビュー」

「KCS ブックレビュー」では、ポスドクや大学院生など若手研究者が国際政治や安全保障、戦略論など多岐にわたる分野の必読文献を取り上げ、その概要と意義、本の位置づけについて解説します。日本国内において安全保障や戦略分野の文献を体系的に学び、深く議論する場がほとんど存在しない現状を踏まえ、当該分野に関心のある全ての方が知識を深めるための基礎的な情報を提供することを目指しています。

▶ 詳細はP.27

最新情報の発信「KCS メールマガジン」

KCSの活動や、所属教員による情報発信を皆様にお伝えするため、2025年9月に「KCS メールマガジン」を創刊しました。KCSの活動報告や各種イベントの告知をいち早くお伝えするとともに、正副センター長の最新の出版、論考、メディア出演情報を紹介しています。さらに、最新の国際情勢について正副センター長による簡単な所感や解説を交えた本メールマガジン書き下ろしの「つぶやき」を掲載しています。是非ご登録の上、ご覧ください。

▶ 詳細はP.28

KCS Strategic Foresight 2026

世界の動きを展望する KCS主催のアニヴァーサリー・イベント

2026年1月19日(月)開催

2024年度よりスタートした‘KCS Strategic Foresight’では、国際政治学者と地域専門家が年初に国際情勢を展望します。各国の情勢を分析し、日本へのリスクや国際トレンドを多角的に探ります。企業戦略に欠かせないリスク評価にも寄与する取り組みです。

KCS Strategic Foresight 2026 パネリスト



細谷 雄一
慶應義塾大学教授



森 聡
慶應義塾大学教授



鶴岡 路人
慶應義塾大学教授



加茂 具樹
慶應義塾大学教授



田中 浩一郎
慶應義塾大学教授



西野 純也
慶應義塾大学教授



池内 恵
東京大学教授



小泉 悠
東京大学准教授

Strategic Foresightとは

ストラテジック・フォーサイトとは、不確実で不透明な将来に対して、利用可能な資料・データ・現地調査や専門的知見などを基に、今後の戦略立案や政策実行に資する予測と展望を行う取り組みです。

＼ 2026年の分析は
こちらから /



＼ 2025年の分析は
こちらから /



＼ 2025年の映像は
こちらから /



本イベントでは登壇者によるコメンタリー集を配布

協賛企業への御礼特典

- アメリカ・欧州・中東・中国・韓国・ロシアの見通しを分析
- 登壇者を交えた協賛企業様対象のクローズドレセプションへのご招待
- 刊行物やイベント会場での協賛企業様ロゴの掲載
- コメンタリーのプレゼント（各社10冊まで）

協賛のご案内

本イベントへのご協賛

一口
10万円

イベントご協賛の他、
月例サロンなどへのご招待が含まれる
「KCS企業会員制度（一口/100万円～）」も
是非ご検討ください

お問い合わせ | kcs-group@keio.jp
(戦略構想センター事務局)

慶應オープンフォーラム

クロアチア共和国首相アンドレイ・プレンコヴィッチ氏 による講演会

共催：在日クロアチア共和国大使館

2025年9月19日

「分裂する世界におけるEUの役割」
("The EU's Role in a Fragmented World")

登壇者 **アンドレイ・プレンコビッチ**

クロアチア共和国首相

細谷 雄一

KCSセンター長

概要 プレンコビッチ首相による基調講演では、日本とEUが共有する価値の重要性が強調され、国際秩序が揺らぐ状況下でクロアチアと日本が協力する重要性が説かれました。その後の細谷センター長との議論では、ウクライナ戦争の望ましい帰結とそのためのモデルとして、紛争を経験したクロアチアの歴史的経験の有効性が議論されました。



田所昌幸名誉教授による講演会 「世界秩序——グローバル化の夢と挫折」

2025年11月10日

登壇者 **田所 昌幸**

慶應義塾大学名誉教授

納家 正嗣

上智大学名誉教授

細谷 雄一

KCSセンター長

森 聡

KCS副センター長



無極化する世界と日本の生存戦略

Foresight
新潮社

特別企画

無極化する世界と
日本の生存戦略

記事一覧ページ /



新潮社 Foresight と KCS の連載企画では、KCS に所属するエキスパートが、主に国際政治と安全保障の観点から国際情勢を紐解き、日本の選択肢を探ります。



無極化する世界と日本の生存戦略 (22)

インド太平洋に広がる日韓「未来志向」の戦略課題

2025年10月30日 西野純也

タグ: 日本 韓国 李在明 高市早苗

エリア: アジア



無極化する世界と日本の生存戦略 (21)

「トランプ政権に翻弄される世界」グローバルトレンド#3

2025年7月1日 森聡, 細谷雄一, 鶴岡路人

タグ: アメリカ トランプ NATO EU 日本

エリア: アジア 北米 ヨーロッパ



無極化する世界と日本の生存戦略 (20)

「危機の三十年」を超えて——混乱と対立の時代における戦略的思考

2025年6月30日 細谷雄一

タグ: 権威主義 移民 トランプ ポピュリズム

エリア: グローバル



無極化する世界と日本の生存戦略 (16)

トランプ時代の同盟は「脱グローバル」と「脱価値」

2025年2月22日 鶴岡路人

タグ: 日本 トランプ アメリカ

エリア: 北米



無極化する世界と日本の生存戦略 (15)

第2次トランプ政権の対外関与と「4つの地域」をめぐる地政学的戦略(下)

2025年1月29日 森聡

タグ: トランプ アメリカ

エリア: 北米



無極化する世界と日本の生存戦略 (14)

第2次トランプ政権の対外関与と「4つの地域」をめぐる地政学的戦略(上)

2025年1月29日 森聡

タグ: トランプ アメリカ

エリア: 北米

KCS グローバル・トレンドとは



KCS公式アカウント



KCSは公式YouTubeチャンネルにて、国際情勢の最新動向や課題を考察する動画企画を実施しています。複雑化する世界の出来事を、第一線で活躍するKCS所属の専門家の視点から分かりやすく、タイムリーにお伝えします。

新しい動画は随時配信中！ [チャンネル登録](#)の上、ぜひご視聴ください。

2025年公開動画

グローバルトレンド第3弾

トランプ政権に翻弄される世界

出演者

細谷 雄一 KCSセンター長
森 聡 KCS副センター長
鶴岡 路人 KCS副センター長

2025年4月21日公開



グローバルトレンド第4弾

トランプ化するNATO

出演者

細谷 雄一 KCSセンター長
鶴岡 路人 KCS副センター長

2025年7月15日公開



KCS公式YouTubeチャンネルの総視聴回数は年間2.3万回以上
——信頼できる専門家による情勢分析を配信

グローバルトレンド第5弾

ウクライナ和平の行方と日本の役割

出演者

細谷 雄一 KCSセンター長
森 聡 KCS副センター長

2025年8月30日公開



グローバルトレンド第6弾

トランプ関税をめぐる日米関係

出演者

細谷 雄一 KCSセンター長
森 聡 KCS副センター長

2025年9月17日公開



最新動画：グローバルトレンド第7弾「2025年を振り返って」現在公開中！
是非ご覧ください

KCS公式YouTubeチャンネルでは、
イベント映像の後日配信や専門家による鼎談企画など、様々な動画をお楽しみいただけます

—— 田中俊郎先生追悼企画 ——

激動の世界の中でのEU



第1弾「歴史の中のEU」

出演者

細谷 雄一 KCSセンター長
鈴木 均 国際文化会館主任研究員
宮下 雄一郎 法政大学教授



第2弾「世界の中のEU」

出演者

鶴岡 路人 KCS副センター長
東野 篤子 筑波大学教授
小久保 康之 東洋英和女学院大学教授

必読文献の紹介 KCSブックレビュー

日本では希少な安全保障・戦略論分野の基礎情報を
若手研究者が分かりやすく紹介します

KCSブックレビュー本文はKCSホームページよりご覧いただけます ▶

URL : <https://kcs-keio.site/book-review/>



過去の紹介文献

KCS
Book
Review
No.1



ハンス・モーゲンソー著
原彬久監訳

『国際政治
—権力と平和 上』
(岩波書店、2013年12月)

KCS
Book
Review
No.2



カルロ・マサラ著
鈴木理恵訳

『もしロシアが
ウクライナに勝ったら』
(早川書房、2025年)

若手研究者の育成とともに
現在の日本に不足している知見の蓄積を目指します

「KCS メールマガジン」掲載情報

最新の活動報告、イベント先行告知、正副センター長の出版・論考・メディア出演情報や最新の情勢に対する書き下ろしの「つぶやき」などを発信中



左記QRコードより
ご登録ください

第2号掲載の森副センター長による「つぶやき」を特別にご紹介

森副センター長の「つぶやき」

日米首脳会談で高市新政権下の日米関係が順調な滑り出しをしましたが、トランプ大統領としては、出だしでまずは協調を演出する思惑が強かったものと思います。防衛費増額の話が出るかどうかには注目が集まりましたが、この問題は常に日本が先手を打っていくべき性質のものだと思います。つまり米側に求められて応じるのではなく、日本が自らの考えや方針を示し、それを米国が歓迎するという形を持続させる必要があるのではないかと思います。米側の要求に応じる形をとると、主体性がないかとのごとき印象を生み、国民の支持も得られにくくなるのではないかと思います。日米関係の次の焦点は、おそらく年明け以降の総理訪米になるとみられます。対米投資の進捗状況を示すだけでなく、戦略三文書改定の重要な柱を多少なりとも示すことになるかもしれません。トランプさんは、防衛費増額の一環で日本が米国の防衛装備品をどの程度購入するのに関心进行けるものと思います。また、米韓首脳間で韓国による原子力潜水艦取得の話が出たようですが、日本でも防衛力の抜本的強化に関する有識者会議がその最終報告書で、トマホークを発射できる垂直発射装置（VLS）搭載の次世代動力を使った潜水艦取得を提案しました。これが改定の目玉のひとつになるかもしれません。しかし、装備ばかりに注目するのではなく、戦略や作戦構想、費用対効果の検討をしっかりと行うべきだろうと思います。

森 聡

KCS副センター長
慶應義塾大学法学部教授

配信日：2025年11月1日

リサーチ・アシスタントの声

KCSでは、学部生から博士課程院生までの学生が、国際政治・安全保障分野の研究プロジェクトに段階的に関わっています。

小林 稜汰 慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程在籍

慶應義塾大学戦略構想センター（KCS）では、リサーチアシスタントも様々な企画の立案から運営まで主体的に関与することが可能です。私は動画企画をはじめとする各種プロジェクトへの関与を通じて、学術的な研究と政策的な情報発信を結び付けるというシンクタンク特有のおもしろさとスキルの獲得を日々実感しています。また、国内外の優れた研究者との意見交換や若手支援を通じた海外調査は、修士課程の学生として自身の研究の発展につながる唯一無二の機会です。将来研究者のキャリアを目指す私にとって、実務的な経験と学術的な基盤の構築をリサーチアシスタントの業務を通じて一気に通貫で身に付けることは、着実に将来に生きるものと確信しています。

望月 陸璃 慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程在籍

KCSでは戦略フォーラムやエキスパートラウンドテーブル等のイベントの企画・運営を行なっております。その中で、国内外の著名な研究者や実務家の方々と関わり、講演や議論を通して、国際政治学に限らず地域研究・戦略論・安全保障などのあらゆる分野のスペシャリストの方々からお話しをお伺いできることは非常に貴重な機会だと感じております。今後も業務を通して、実務的な面に加えて、学術的な素養を高め、広い視野を持って社会に貢献できるよう努めていきたいと思っています。

小野寺 葵 慶應義塾大学法学部学生 *2026年4月より修士課程進学予定

KCSのアシスタントとして、私は学部生としては中々体験できないような機会を数多く得てきました。例えば、日米の最前線で活躍する研究者との日米関係に関する意見交換や、外国の首脳を迎えるイベントの運営に携わることなど、貴重かつ刺激の多い機会に恵まれてきました。国際政治学と動いている国際情勢は切っても切れない関係にあると思いますが、KCSの魅力は、まさに国際政治の学問と実務的側面の双方の最前線と関われる点にあると感じています。他にも、KCSの国際的に幅広いネットワークを通じて、海外で活躍されている若手研究者の方々と接点を持つこともできました。研究の道を志す学部生として、貴重な出会いに富んだ環境であると実感しています。

公式SNSアカウント

ホームページ

活動報告、メンバー紹介など

<https://kcs-keio.site/>



X (Twitter) X

講演・メディア出演情報、イベント告知、
活動報告など

https://x.com/keio_KCS/



Instagram

イベント告知、
研究・大学院生活に有益な情報など

[@keio.center.for.strategy](https://www.instagram.com/keio.center.for.strategy)



YouTube

専門家による時事解説、イベント動画など

[https://www.youtube.com/channel/
UCWOkI0a4uKbH3-WUHvVgcDw](https://www.youtube.com/channel/UCWOkI0a4uKbH3-WUHvVgcDw)



お問い合わせ

CONTACT US:



<https://kcs-keio.site/>



kcs-group@keio.jp

メールマガジンの配信登録

KCSのイベントのご案内、
研究成果や所属教員の寄稿情報などを
お届けします



左記QRコードより
ご登録ください

*購読は無料です

編集・発行／慶應義塾大学戦略構想センター

発行日／2026年1月19日

寄付について

協賛企業

・HAKUHODO・

MRI 三菱総合研究所

KREAB

プロジェクト・スポンサー



【プロジェクト名】

慶應・ケンブリッジ 日英安全保障協力セミナー
Keio-Cambridge Japan-UK Security
Cooperation Seminar

(2024年度)



【プロジェクト名】

国際秩序の再構築のための日米英協力：
不確実性の時代における
新しいグランドストラテジーの策定に向けて

(2025年度)

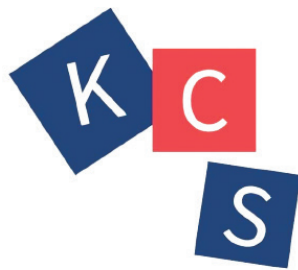
* KCS への寄付金は所得税法による寄付金控除の対象です。



KCSでは、皆様よりお預かりした寄付金を研究推進と
組織の更なる飛躍のために大切にに使わせていただいております。
ご支援に心より御礼申し上げます。

寄付に関するお問い合わせは下記メールアドレスまでご連絡ください。

 kcs-group@keio.jp (KCS事務局)



KEIO CENTER FOR STRATEGY